

現状・課題（まとめ）

■ 上位計画・関連計画等の位置づけ

- ・港区エリア別活性化プランにおいて、安全安心を確保しつつ、都市機能の強化、にぎわい魅力創出を図ることが求められている。
- ・市全体の計画においては、国際的な拠点形成として夢洲・咲洲エリア（ニシ）の開発が進められており、弁天町駅周辺は「ニシの玄関口」のポジションにある。

■ ポテンシャル

- ・JRとオオサカメトロの結節点となっており、交通利便性が高い。
- ・大阪ベイトワーや港区土地区画整理記念・交流会館（R6）などの都市機能が集積している。
- ・まちづくりに活用可能な広大な跡地が、3箇所ある。
- ・夢洲・咲洲エリアや将来のIR開発等により、来訪者の増加が期待される。
- ・万博やIR開業に向け、民間による周辺開発（駅改修やマンション建設等）が旺盛になってきている。
- ・コスプレ文化といった、若者や多文化にも繋がる新たな魅力・文化の発信を行っている。

■ 現状分析

【人口】

- ・区全体は減少見込みであり、東部エリアが区の人口の過半数を占め、人口分布に偏りがある。
- ・区の高齢化率は市平均より高い。
- ・区の外国人人口は市平均より増加率が高い。

【防災】

- ・現時点で、津波避難施設は充足している。

【歩行者ネットワーク】

- ・国道43号や中央大通等の幹線道路が地域を分断
- ・鉄道の複雑な立体交差

【行政施設】

- ・区民センター・図書館といった地域交流施設等は充足するが、多くの行政施設が、今後30年後に建替えの時期を迎える。

【課題と対策】

区全体の人口増につなげるため、周辺へ波及効果のあるにぎわいが必要

若年層に魅力のある環境づくりが必要

多文化が共生できる環境づくりが必要

今後の開発により増加する要避難者数に対して、さらなる津波避難施設が求められる。

横断者の利便性や交通安全上の課題があるため、バリアフリー化や地域の分断解消に資するデッキ等の整備が求められる。

将来的な行政施設の再配置も一定考慮した検討が必要

めざす姿と求められる機能・方策（案）

めざす姿

- 「ニシ」エリアの玄関口にふさわしい都市機能の強化
- 周辺地域への波及・相乗効果につながるにぎわい魅力創出
- 駅まち空間の充実に向けた回遊性向上

<求められる機能>

- ・国際拠点を目指すベイエリアを補完する機能
（宿泊機能・商業機能（来訪者向け）
・多文化共生拠点やイベントなど）
- ・地域拠点機能
（地域交流拠点・居住環境・商業機能（地域向け）
・安全安心など）

【方策イメージ】

- ・3つの跡地（市岡商業高等学校・教育センター・交通科学博物館）と既存施設（民間施設含む）を活用した魅力向上
- ・バリアフリー動線も踏まえた回遊性向上
（歩行者デッキ・鉄道、バス、新たなモビリティの乗り換え利便性向上等）